

夏休みわくわく地図教室

中高生のためのリモートセンシング教室

【夏休みわくわく地図教室】

地図に関心のある小・中学生を対象に、地図に関する講義とコンピュータを使った地図の作成を行う「夏休みわくわく地図教室」が、7月24日（水）と7月25日（木）に開催されました。

地図教室では、地図教育を研究されている編集ライターの渡辺一夫さんにお越しいただき、家から学校までの地図を手で書きながら、地図における方角や距離、地図記号などの意味を理解したり、地図帳や地形図にはたくさんの情報が詰まっていることなどを説明していただきました。その後、スライドで第7回児童生徒地図作品展の入賞作品を鑑賞し、実際にパソコンを使って学校や家の周りの地図を作成しました。

参加者からは、渡辺さんの丁寧なお話や、実際にパソコンを使った地図作りが楽しくて、地図についての理解を深める事ができたという感想をいただき、この地図教室をきっかけに、第8回児童生徒地図作品展に作品を応募された人もいました。

来年度も引き続き実施する予定です。お申し込み方法などはインターネットホームページなどでお知らせします。

（例年7月上旬より先着順で参加受付をします）。



夏休みわくわく地図教室

【中高生のためのリモートセンシング教室】

中学生及び高校生を対象に、リモートセンシングについて理解を深める「中高生のためのリモートセンシング教室」を、1月26日（日）に開催しました。

はじめに、千葉大学環境リモートセンシング研究センターの建石隆太郎助教授から、リモートセンシングの基礎について講義していただき、リモートセンシングとは人工衛星などを用いて離れたところから地球を観察し、地球の温度や植生など様々な状態を調査することであることや、簡単なデータの解析方法、また熱帯林の開発の様子をリモートセンシング画像により経年的に紹介されるなど、リモートセンシング全般について、分かりやすくお話ししていただきました。

続いて、県民ふれあい会館の展望室から画像と実際の風景を見比べた後、参加者が実際にパソコンを使って、ランドサットデータを用いた土地利用分類図の作製などの体験を行いました。

「リモートセンシング」という言葉を初めて聞いた参加者も多かったようですが、体験を通してリモートセンシングについて学ぶことで、新たな興味を持った生徒もいました。



中高生のためのリモートセンシング教室